

現場と私

清水建設株式会社
土木東京支店 千葉土木営業所

● 平井 恵梨

土木へのルーツ

私は神奈川県藤沢市で育ちました。近くには鎌倉や江ノ島と言った海や自然を感じられる観光名所があり、また電車で少し移動すると横浜があり、都会も自然も楽しめる環境で暮らしておりました。高校生の頃、大学受験に向けて学科選びを行う中で、多くの人々が使用する社会基盤は土木系の人々が作っていることを知り、さらに近年問題となっている豪雨災害・地震についても取り組んでいることを知り、人々が安全・安心して暮らせる社会基盤の構築に携わりたいと思い土木学科へと進学しました。大学では劣化したコンクリート構造物の耐久性を実験・解析を用いて検討を行う研究を行っており、コンクリートを練るということを身近に感じていました。そして就職先を考える上で「私はどういった面から社会基盤に貢献したいのか」と考え、多くの企業のインターンシップに参加し、現場で構造物が出来ていくのを肌で感じたいと思い、ゼネコンに就職することを決めました。

入社後

入社後一か月の研修を経て配属されたのは、中国地方の重力式コンクリートダムの現場でした。大学生の頃には、様々な都市土木の現場には見学に行っていましたでしたが、ダム現場は全く別

物で衝撃を受けました。コンクリートは最大で一五cmの骨材を使用し、スランプ三〇cm程度のコンクリートを現場プラントで製造し、重機式のバイブレータで締め固めていました。配属されて最初の三か月間は先輩と一緒に現場に行き、主に品質・

出来形・安全管理について教えてもらいました。四か月目からは半年間、小さい工種を自分一人で任されました。自分で必要な材料を注文し、業者さんと打合せ、測量、打設、品質・出来形管理を行いました。正直任されたときは、自分一人ではできないと思っていたのですが、分からないことは先輩や業者さんに教えてもらい、自分なりに考えて現場を進めることができました。私は現在入社五年目ですが、この半年間の経験が今の施工管理業務のベースとなって生きています。

豪雨災害の経験

二〇一八年、私は現場で西日本豪雨を経験しました。二〇一八年六月末から七月八日の間に現場では累計六〇〇mmの雨が降りました。ダムを施工する際は河川の流れを仮設締切で切り替えています。しかし連日の雨により河川は増水し、仮設締切を超え現場内は一〇mほど浸水しました。また各所で土砂崩れが発生し、現場近くの国道は通行止めになり電柱・電線が被害を受け現場内は一週間停電となりました。この経験より私は「命の大切さ」と「ダムの必要性」を学びました。建設現場は工



ダム現場では、バケツを用いて打設します。打設量の節目ごとに式典を行いました。



趣味はサッカー観戦。中国・九州の様々なチームのスタジアムに行き観戦しました。



ロケ地で有名な山口県の角島大橋に行ったときの写真です。ドライブがてらに行きましたが天気もよく絶景でした。

期厳守のため、現場での作業時間をいかに多く確保するかが重要となります。そのため雨天でも作業する場合があります。その場合、全作業員の安全は確保出来ているかを確認し、安全が確保できない状況ならば中止・避難をしなければなりません。もちろんあらかじめ現場内で作業中止・避難する際の基準やシナリオは作成していますが、実際はシナリオと違う場合が多々あります。そういった場合、どう状況を判断し指示を出すか、また作業所は全作業員の命を預かっている自覚を持ち、適切な判断を迅速に行っていく必要があると再認識しました。今回の豪雨で河川は決壊しなかったものの、氾濫危険水位には達していました。また近年自然災害も多くなっており、「ダム必要性」として「建設会社の社会貢献の高さ」を再認識することが出来ました。

プライベートトーク

平日は現場業務に追われて過酷しています。が、休日はアクティブに過ごしています。ダム現場にいた頃は中国・九州地方へ旅行に出かけたり、サッカーが好きなので、中国・九州のJリーグチームの観戦にも行ったりしました。建設会社は転勤が多いイメージですが、各地方の魅力を体感することができ、関東出身の私にとっては、とても楽しい地方生活でした。

女性技術者として

私は建設会社に就職したいと大学三年生の頃に思いました。その頃は女性技術者が少いはず増え始め、メディア等で注目されている状況でした。私は建設会社で働きたいと思うもの、自分も実際現場で働いていけるのかという不安があったため、就職活動前に多くの女性技術者の方を訪問し現場で働く生の声を聞かせていただきました。女性技術者の方と話をしていく中で、自分が不安に思うことについて相談しました。またやりがいや先輩方が作ってくれた制度を知ることができ、不安を解消することができました。おかげで実際建設会社に就職し、現在も現場で楽しく業務にあたっています。これは女性技術者の先輩方が道を切り拓いてくださったおかげだと思っています。なので私も後輩たちや学生とコミュニケーションをとることや建設業界が魅力的であることを発信する活動を積極的に行っております。そして近い将来、女性技術者が現場にいるのは当たり前になることを願い、今後も自分にできる活動を続けていきたいです。

平井さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、農業土木建設コンサルタントに勤めるきっかけや、これまで携わった業務内容等についてお話ししたいと思います。楽しみにしてください。

サンスイコンサルタント株式会社
本社技術第1部 技術第1グループ

高橋 夏実

